

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	※説明内容は別紙資料のとおり。以下、質疑応答の部分を記載。 〈テーマ１：陸上自衛隊美幌駐屯地〉 ・日頃の町との連携・駐屯地開放等について感謝を述べた。街中に設置された自衛隊協力の看板が、内地からの移動者に美幌町と自衛隊の親密な関係を伝える効果があることを確認した。 ・駐屯地の北国資料館（歴史展示施設）の活用・一般公開の可能性について議論した。古墳時代から現代までの資料を展示しているが、施設の老朽化・建物の問題もあり一般公開には課題がある。 →テレビ局の取材についても対応不可だった経緯があるが、今後の方向性として課題を整理する。 ・熊本県の吉海海軍航空隊の事例（秘密基地ミュージアムを設立し歴史資産・防空壕等を観光資源として活用・大成功）を紹介し、美幌町でも戦争遺跡（防空壕・射撃練習場跡等）を活用した歴史観光の可能性があるとの意見を述べた。 →観光分野での活用可能性について関連部局と整理・検討する。防衛省補助の活用も検討余地がある。 〈テーマ２：消防救急体制の強化〉 ・家族安心カード（緊急連絡先・血液型・既往症・お薬手帳情報等を記載したカード）の救急活用について提案した。マイナンバーカードでは血液型・緊急連絡先などの情報は把握できないため、家族安心カードとの連動が救命率向上に有効との意見を述べた。75歳以上への配布に加え希望者にも提供しており、令和7年度から内容を簡略化（氏名・緊急連絡先3件のみ）した経緯がある。 →安心カードは救急現場でも有効であり、分かりやすい場所に保管いただくと活用しやすい。福祉の高齢者見守り分野との連携も含め持ち帰り・2周目で整理する。 ・自治会で実施している見守り活動（旗の設置・電気の点灯確認等）について共有した。よりスマートな安否確認（センサー・ラインを活用した既読確認等）の可能性についても意見交換したが、スマートフォン未所持の高齢者への対応が課題。 ・回覧板のライン化（デジタル化）に取り組む自治体が増えており既読確認で安否把握も可能になるとの意見を述べた。アナログ・デジタルそれぞれの利点を活かした重層的な見守り体制の構築が重要。 ・ネット119サービスについて確認した。聴覚障害者等がチャット形式で119番通

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	報できる機能であり、住所・状況を入力することで救急対応が可能。電話より時間はかかるが緊急時の有力な手段となる。外国人対応（多言語三者通話契約）も整備済みであることを確認した。 ・消防での普通救命講習について、各自治会行事・老人クラブ例会等への出前講習を積極的に活用することが普及に効果的との意見を述べた。 ・女満別空港（近隣）への消防出動体制（訓練・実際の出動）について確認した。管轄区域ごとに主任消防が異なり、相互応援協定に基づいて連携する体制が整っていることを確認した。冬場の除雪車先導による出動・自衛隊車両（雪上車等）の活用事例も紹介された。 ・住宅用火災警報器の電池切れへの対応について確認した。バッテリー式（電池交換不要・約10年で本体交換）への切り替えが進んでいることを確認した。